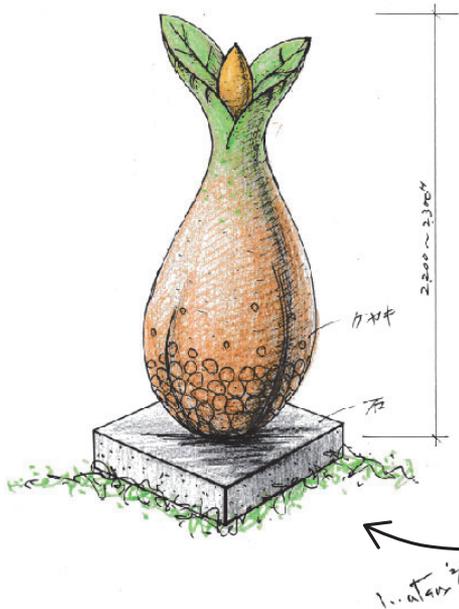


地球の実 公開彫刻プロジェクト

生命の根源である水をテーマに、自然界の循環と生命の大切さを表現しようと制作を続けています。
この作品は、地元飯館村の木材を使用し、未来に向かって育つ新たな希望の実を表すものです。



木は恒久的な材ではありませんが、気象によって土へと帰っていく時間経過や自然の循環を感じることのできるものです。
変わらない彫刻ではなく、置かれた場の時間と共にある彫刻。
一本の樺からこの彫刻ができる瞬間を皆さんと共有できれば幸いです。

期間 2022年3月6日 -13日

時間 AM9:00-PM5:00

場所 旧コメリ建屋内

設置 2022年5月頃予定



↑菅野宗夫さん提供の樺



松田 重仁
Shigehito Matsuda

彫刻家

1959 山形県生まれ。彫刻の宿命ともいえる重力から自由になること、生命の根源である水をテーマに愛と希望の作品を制作している。卓越した木彫技術による彫刻作品のほか、それらに真鍮を加え、有機的で生命力あふれる木の芽や実、浮遊する水や空へと伸びる姿を展開した作風で知られる。



までい花プロジェクト

酒百 宏一
Koichi Sakao

美術作家
東京工科大学教授



1968年石川県生まれ。フロッタージュという擦り出しの描画技法で、その土地や人の営みの痕跡を写し取る作品づくりを続け、地域住民と協働したアートプロジェクトも多数手がけている。越後妻有では、「みどりの部屋プロジェクト」を2006年から継続している。

飯館村の森林の葉っぱを色鉛筆で写しとる「花づくり」のワークショップを通じて、飯館村における人とのつながりや交流を促します。飯館村の変わらない自然の営み、そして手間隙を惜みず、丁寧に、心を込めた「までい」な花をアートプロジェクトとしてかたちにします。

飯館村の象徴となる『花』を一人ひとりの手によって生み出していく、みんなの花で空間を作ります。花づくりには、飯館村の葉っぱを使い、その葉っぱをフロッタージュという色鉛筆による写し取りの手法によって作り出します。



↑菅野元一さん協力



ART 農業

ひょうたんボトルとおもちゃの実

litate-mura

飯館村で食料ではない農業の可能性を探っています。
住民が得意な農業を通じて未来につながる作品作りを実践しています。

昨年は齊藤次男さんと佐藤俊雄さんに畑をお借りし、キャップを付けられるひょうたんボトルと様々な形のおもちゃがぼちゃを栽培しました。秋のハロウィンイベントには沢山の子ども達が「おもちゃ狩り」に集まってくれました。
また、ひょうたんボトル制作には高橋あけみさん、佐々木智恵子さんがお手伝いして下さい、無事試作を完成させることができました。今年は商品化を目指し改良していきたい！



長谷川 仁
Jin Hasegawa

アーティスト

1972年北海道生まれ。社会学、プロダクトデザインを学んだ後アーティストとして活動を始める。社会とのつながり、自然とのつながりを皆で分かち合いたいとの想いで様々なプロジェクトを行う。

- キッチンカーカフェ開業 -

今年の春にはこの場所を拠点にキッチンカーカフェの開業を目指しています。

地域おこし協力隊の松尾くんが中心となり、オリジナルブレンドや季節のドリンク、また村内外とコラボしながらティーフードの販売を計画中です。



松尾 洋輝 地域おこし協力隊

宮城県仙台市出身。4年間のプロゴルファー生活から、2020年1月に動画制作を中心としたクリエイティブ会社Espero（エスベロ）を起業。2021年から福島県飯館村で地域おこし協力隊として活動。

- 建築について -

内部はセルビルドをテーマに村内にある素材を組み合わせながら空間を作っています。ビニールハウスの鉄骨や仮設住宅のログ木材、去年村内で出た穀殻の断熱材、村の産業であった石材などを使用し、出来る限り自分たちの手で造作を進めています。また、村内から集めた廃材や、廃校の小学校の備品などを組み合わせ、新たなインテリアとして使えるよう家具をデザイン。今ある素材、大空間を生かしながら、自分たちの手で新たな場を作っています。

つくる場を創る。

- 旧コメリ大改修プロジェクトのきっかけ -

2011年の震災以降、約10年間、手つかずのままだったこの建物。

本来ならば去年から取り壊しが始まる予定でしたが、解体に取り掛かる直前、ここをどうにか活用できないか、というお話を村経由で伺いました。ちょうど私たちがMARBLiNGの設立に向け準備を進めていた頃で、事業の一つである「空間づくり・拠点づくり」の舞台となる場を模索していた背景もあり、思い切って活用し手を挙げたのが、本プロジェクトの始まりです。

- この空間の可能性 -

この場所は、様々な分野の人やテナントが集まり、アイデアを集積し、共に手を加え作り上げていく手作り空間です。

まずは、地域のアイデアや材料で発展していくキッチンカーショップ、倉庫空間を自由に使ったイベントスペース、たくさんの「やってみたい」が集まるシェアオフィス、様々なモノづくりが出来る木工室など、拠点の基礎となるコンテンツの場作りをしています。また、電気屋さんが実践する水耕栽培、アーティストが育てる変わった作物、研究者が考える未来の技術や自然の観測データなど、多様な企業や分野の人々が、それぞれの視点で里山の未来を考え実験するハブ空間を作ります。

ここでどんな人が何をしていたら、どんなことが起こっていたら、より面白いだろうか。何かを育てている人や、何かを売り買っている人、自由に絵を描く人がいてもいいし、感じたままに音を鳴らしている人がいてもいい。パソコンでリモートワークをしている人も、ただただのんびり休憩している人も。この広い広い空間でできそうなことイメージを、自由な発想でいろんな方向にふくらませています。モノをつくる、土をつくる、食をつくる、場をつくる、いろんなつくるを実現する場所に。



合同会社 MARBLiNG について



松本 奈々 MARBLiNG, Inc. 共同代表

福島県福島市出身。津田塾大学英文学科を卒業後、都内のIT企業でシステムエンジニアを経験し、2019年4月に飯館村地域おこし協力隊に着任。2021年に矢野淳とともに合同会社MARBLiNGを設立し、村内の空き施設活用プロデュース事業をメインに活動中。



矢野 淳 MARBLiNG, Inc. 共同代表

東京都杉並区出身。2011年に認定NPO法人ふくしま再生の会を飯館村民と協働で立ち上げた父・田尾隆一の影響で高校生の頃から飯館村に関わる。2020年東京藝術大学建築科卒業後、現在は東京で美術予備校の講師をしながら飯館村と東京の二拠点で活動している。

